

わたしたちの生きる社会に学ぼう

～学校と社会をつなぐN I E～

たつの市立揖西東小学校 校長 真田 忠敏
教諭 石原 崇史

1. はじめに

本校の今年度の研究テーマは、「ひとりひとりが学ぶ力を身に付け自己肯定感を持てる児童の育成 ～話し合い・討論を取り入れる指導法の工夫～」である。5年生40人を対象に、まず新聞に関するアンケート（5月上旬）を実施した。

- ・あなたの家は新聞を取っていますか？
とっている（75%）
とっていない（25%）
- ・最近（この1カ月間）家や学校でどのくらい新聞を読んでいますか？
毎日読む・時々読む（30%）
ほとんど読まない・全く読まない（70%）
- ・新聞記事やニュースなどについて、家族や友だちや先生とよく話しますか？
よく話し合う・時々話し合う（27%）
あまり話さない・話さない（73%）

また、新聞で見たい内容として「テレビ欄」「スポーツ面」が多く、1面記事や政治・社会面などにはあまり関心がないことがうかがえた。このような児童の実態から、まず新聞に親しませる必要があると考え、5年生を中心に実践をスタートさせた。

2. 実践内容

(1) 新聞コーナー設置

本校には、全員が集まったり通ったりするワークスペースがない。そこで、購読開始の6月から、できるだけ児童が目にする多くの2階の読書コーナーに「新聞コーナー」を設置した。3・4年生の教室が近いため、休み時間には中学年の子を中心に新聞を読む

姿が多く見られた。高学年の児童にも新聞を自由に読む環境を与えるため、12月からは3階にも「新聞コーナー」を設置した。



2階



3階

(2) 朝学習における取り組み

① 新聞を活用した辞書引き

本校は、朝学習の時間（15分）を設定している。その時間を利用し、新聞から自分の知らない語句や聞いたことはあるが意味は分からない語句を、辞書で調べていく活動を取り入れた。

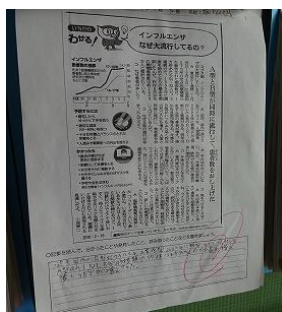


② 読解力育成ワークシート

提供していただいた新聞記事の中から、児童が興味を持ちやすいものや授業内容に関連する内容の記事を使って、ワークシートを作成した。記事内容を読み取ることで、読解力の育成をねらいとした。

読解力の中でも、①文章読解と②表・グラフ読解の二つの観点に留意してワークシ

ートを作成した。題材にした記事は以下のようなものである。



- ・衆議院議員選挙
 - ・皆既月食
 - ・地震
 - ・平昌オリンピック
 - ・インフルエンザ
 - ・フルマラソン
- など

できるだけ写真や表・グラフが入ったものを作成し、それらに対する設問を設定することにより、読み取る力の育成を図った。最後には、自分の意見や考えを記述する項目を作り、記事に対する自分の考えを持てるようにした。

(2) 授業での取り組み

① 2年生での実践

○「国語」新聞で学ぼう～カタカナ集め～

“新聞で学ぼう”と題し

て、新聞の中で使われているカタカナ調べを行った。

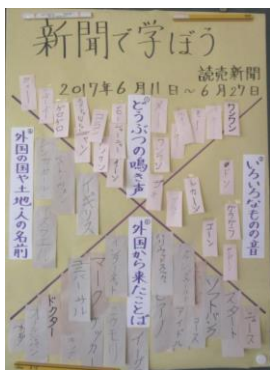
- | |
|--------|
| ① 見つける |
| ② 分類する |
| ③ まとめる |



2人ペアで見開きの新聞紙の中から、たくさんの片仮名を見つけてきました。

見つけた片仮名を「どうぶつの

鳴き声」「いろいろなものの音」「外国から来たことば」「外国の国や土地・人の名前」の4種類に分類し、整理していった。普段はあまり新聞を読む機会は多くないが、意欲的に言葉集めに取り組むことができた。新聞に慣れ親しむと同時に、新聞に使われている片仮名の特徴についても気付くことができた。



<児童の感想>

- ・「どうぶつの鳴き声」と「いろいろなものの音」は新聞にはあまりなかった。
- ・「外国から来たことば」が一番多い。
- ・ふだんあまり新聞を読まないけれど、わたしでも読めることがわかった。
- ・テレビらだけがよこ書きであとはたて書きでした。

② 5年生での実践

○「総合的な学習の時間」福祉領域

毎年6月に福祉参観日を行っている。5年生はたつの市社会福祉協議会のご協力で高齢者の方との接し方を学ぶ「高齢者体験」を行う。その一環として、たつの市地域包括支援課のご協力で「認知症キッズサポーター育成事業」に取り組んだ。子どもたちは「認知症」



についてあまり知らなかったが、認知症に関する新聞記事をきっかけに基礎知識を学んだ。

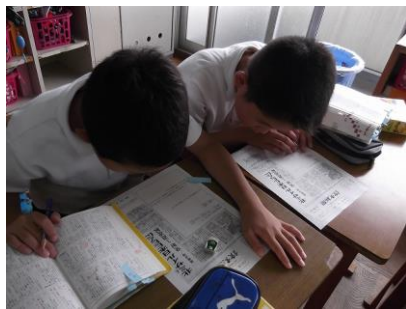
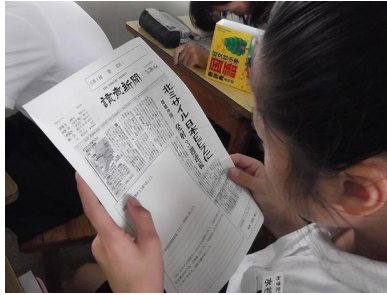
高齢者ドライバーの運転免許返納制度の新聞記事を通して、認知症に対する疑問点の解消や正しい理解を図った。その後、地域包括支援課の出前授業では、認知症の方と実際に



接する時に大切な心構えなどを教えていただき、認知症のキッズサポーターの証であるオレンジリングをいただいた。高齢化社会を迎えている今、私たちが生きる日本の課題の一端を、新聞記事によってより身近に感じる事ができた。

○「社会科」水産業のさかんな地域

「日本の水産業のかかえる問題」の中で、200海里水域（排他的経済水域：EEZ）問題がある。教科書でも遠洋漁業との関係を学ぶ。ちょうどその学習の時期に、日本の隣国がミサイルを発射して日本の排他的経済水域に落ちるといった記事が新聞をにぎわせた。



そこで、日本にとって排他的経済水域（EEZ）がどのような意味をもつかを考えるために新聞記事を活用した。国土の面積のわりに日本の排他的経済水域（EEZ）

が広いこと、沖ノ鳥島が重要な意味を持っていることなど、新聞記事を通して再確認することができた。またこの記事が1面で大きく扱ってあったことも、日本にとって排他的経済水域（EEZ）がいかに重要な意味をもつかを知るきっかけとなった。

○「社会科」わたしたちの暮らしを支える情報

小単元「情報をつくり、伝える」では、メディアの特徴やその役割について学ぶ。メディアの中でも主に新聞について学習を進めるため、NIEの新聞購読計画をこの学習が始まる1月に6紙（読売・朝日・神戸・毎日・産経・日本経済）全部を提供していただけるようにしていた。

授業では、全6紙の1面記事を比較し各紙の特徴やその内容を比べた。



（児童の意見）

- ・1面記事が新聞によって違う。
- ・説明のためのグラフ・図・写真が多い。
- ・海外の出来事が1面記事になっている新聞もある。
- ・神戸新聞は、兵庫県のことが1面にある。
- ・6紙中2紙は同じ出来事がトップ記事だ。

複数の新聞を見ると、児童は見出しや写真に注目した。消費者に新聞を買ってもらうことを考えると、いかに興味をひく見出しや写真を掲載するかが売上げを左右することに気付き、その工夫を考えるようになった。そこでNIE記者派遣事業へとつなげた。

【NIE記者派遣事業】

児童が新聞づくりの工夫に興味をもったところで、神戸新聞社赤穂支局の西竹唯太郎支局長を招き、新聞づくりの工夫や記者としての仕事内容などを教えていただいた。



新聞記者から実際に話を聞くことは貴重な機会であるので、6年生にも声をかけ、体育

館で5・6年生合同の活動とした。6年生も自分たちが学習した内容や、普段の生活の中で疑問に思ったことなどを数多く質問した。全ての質問に丁寧に答えていただき、実りある記者派遣事業となった。

○「社会科」自然災害から人々を守る

3月11日に合わせて、自然災害についての学習をした。教科書では阪神・淡路大震災と東日本大震災のことを取り扱っているが、1995年の阪神・淡路大震災は5年生児童にとっては生まれる前の出来事であり、1・17で防災学習をしてはいるが、自分事としては捉えにくい現状がある。



そこで、当時の新聞記事を利用し、東日本大震災がいかに関人の生活や日本の産業に影響を与えたかを、新聞記事から学んだ。東日本大震災が起こった2011年(平成23年)は、5年生児童が5歳くらいである。自分たちが生きている時代に、しかも阪神・淡路大震災より被害が大きかったことを知り、その重大さに驚いた。子どもたちが特に注目したのは、やはり見出しと写真である。巨大地震や津波だけでなく、原子力発電事故などにも波及したことを知り、とても驚いていた。原子力発電や放射性物質について自主学習する児童もおり、興味関心の高さがうかがえた。

○「国語」グラフや表を用いて書こう

わたしたちが生きている社会が、くらしやすい方向に向かっているかをグラフや表を用いて、自分の意見を書く活動である。統計資

料などを集める作業に新聞を活用した。

自分の意見に合う記事とそのグラフや表を、



保管していた大量の新聞の中から探し読み返した。自分の意見の

明確な理由づけとなるかを考えながら選んでいた。グラフや表を説明する新聞の本文がとても参考になった。分からない言葉は辞書引きし、子ども用辞書にも載っていない言葉については、ネットで調べる児童の姿があった。

新聞というツールを使うことにより、楽し



んで学習に取り組むことができ、主体的な学習となった。

3. 成果と課題

(成果)

5年生を対象にアンケート(3月上旬)を実施した。最近(この1カ月間)家や学校で新聞を毎日読む・時々読む(75%)。新聞記事やニュースなどについて、家族や友だちや先生とよく話し合う・時々話し合う(60%)となった。児童が新聞を楽しみ、わたしたちの生きる社会の出来事を知ることに関心を持っていることがうかがえた。

(課題)

実践指定校1年目ということもあり、手探りでの取り組みとなった。しかし、新聞活用が児童の主体的な学びを起し、知的理解を深めることに確信が持てた。来年度は2年目となるが、更に多様な活用方法を計画・実践していきたい。